

# 白河高校同窓会報



## 甲子園への道

一人一人が人生の甲子園を

校長 高橋 正 人

### ◆文武両道への挑戦

第九十六回全国高等学校野球選手権福島大会は聖光学院の逆転勝利により幕を閉じました。

我が白河高等学校野球部はノーシードから一戦一戦勝ち上がり、対会津学鳳戦五・四、対喜多方戦七・〇、対田村戦八・一、対安達戦五・四、そして準決勝対日大東北戦〇・七で残念ながら敗れましたが、県ベスト4まで駒を進め、堅守速攻の澁刺としたプレーに全力を尽くす姿は、県南地方のみならず、多くの県民に夢と希望を与えてくれました。

灼熱の太陽の下、選手はもとより開成山野球場三塁側スタンドを埋めた全校生徒による応援を始め、吹奏楽部員や保護者、そして、白河同窓会の皆様一人一人の思いが球場一杯に響き渡り、「白河高校ここにあり」の思いに浸りながら声を限りに応援することができました。

発行所  
郵便番号 961-0851  
福島県白河市南登り町54  
白河高校同窓会  
電話 ☎ 1116 番  
振替口座 郡山 02100-4-2774

発行人  
安田好伸  
編集委員長  
堀川哲雄  
(有)古楓堂堀川印刷所

両道の伝統を誇る白河高校の新たな歴史と伝統を築いてほしい」との熱い激励の言葉をいただきました。

### ◆創立百周年に向けた歩み

平成二十七年三月卒業予定の高六十七回生も大学入試センター試験に向けていよいよ正念場を迎えます。昨年度は京都大学への二年連続合格を果たすとともに、医学部医学科を始め難関大学等への進路希望の実現に向けて日々の努力の成果が現れた年でした。

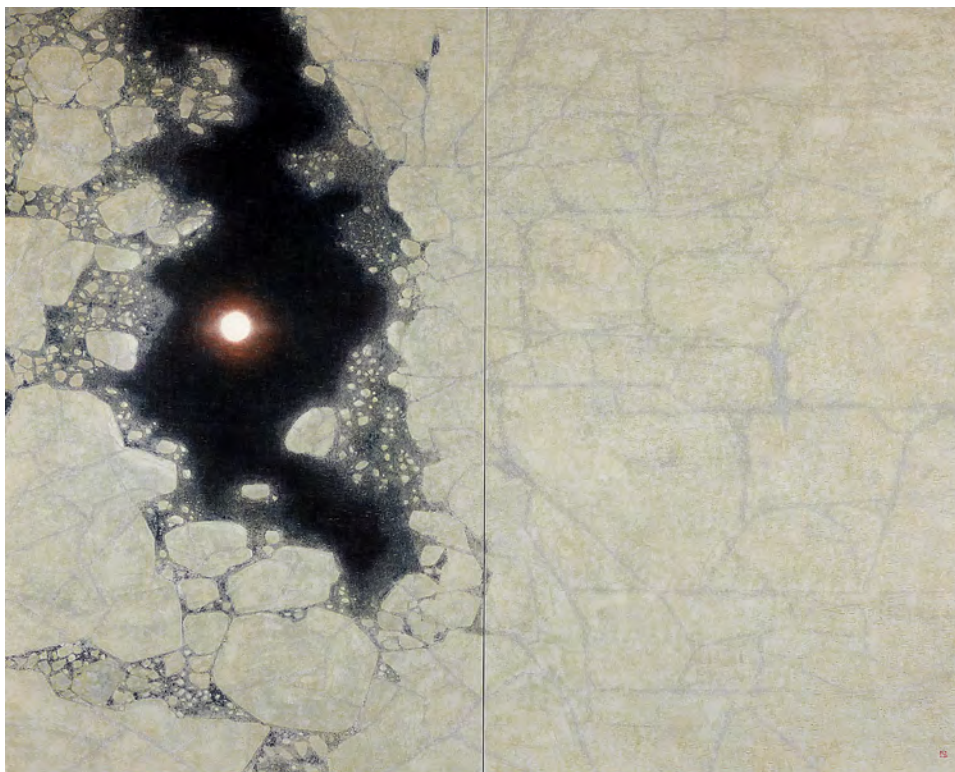
入学当初は頼りなげな生徒も白高での一年が経過し、二年、三年を経ることにより逞しく成長し、白高生としての自覚と責任を持って大局に立った行動をすることができるようになります。これこそが白高生の変わらない強さだと思えます。同窓の皆様が通ってきた道を在校生もまた一歩一歩確かに歩み続けていることを日々実感しています。

二年前に行われた創立九十周年記念式典並びに記念事業に寄せられた同窓会会員の皆様からの御支援に心から感謝いたしますとともに、白河高等学校創立百周年に向けて本校がさらに発展できるように全職員挙げて努力を重ねてまいりますので、今後とも会員の皆様からの大所高所からの御指導・御鞭撻をよろしくお願いいたします。

### 「流水幻想」

内閣総理大臣賞

今井 珠 泉



(縦 200.0 cm × 横 250.0 cm)

(作品解説は4ページ)

# 文武両道の名門校として



同窓会長 安田好伸(高18)

今夏の高校野球大会では、福島県大会において白河高校野球部がベスト4まで勝ち進み、甲子園進出も夢ではないと感じた同窓会員も多かったことと思います。

剣道部は昨年が男子、今年は女子が全国大会に出場、自転車も全国大会に進出、さらに文化部も各種大会に出場と大活躍です。

また大学受験では、現役生の多くが国公立をはじめ有名大学に合格するなど、まさに文武両道の名門校として、白河高校の名を高めてくれています。

同窓会としてこれほど嬉しいことはなく、できることならさらなる躍進を期待するところです。

同窓会では優秀な卒業生に贈る登龍賞をはじめ、進路実現のための各種事業を、二万三千人を超える会員の皆様からの賛助金を元に、PTAや後援会と役割を分担しながら実施しています。

これからも、ますます登龍魂を發揮して、白河高校の名を高めてくれるものと信じます。

ご意見をいただくこともあり、大都市部では英才が競い合い、切磋琢磨して上位有名校を目指すのに対して、地方の小都市部では

地元で大学もなく、情報や刺激も少なく、競争意識も働かずにのんびりしている現状ではないかと。

このほど東京六大学応援団連盟による白河復興応援プロジェクト「白河六旗」が、白河市で開催されました。東京大・立教大・法政大・慶應義塾大・明治大・早稲田大の各大学の応援団リーダー部・チアリーディング部が吹奏楽部の演奏で、応援活動を実施しました。総勢百二十名もの大編成です。

二日間の開催のうち、一日目は白河市内の中学校八校の三年生七百人が招待されました。迫力ある実演の後には交流会が持たれ、中学生から大学生に向けて様々な質問がありました。終了後に出口で中学生たちと大学生たちが握手をして別れたのですが、中学生たちが本物の東大生をはじめ、これほど多くの大学生たちと言葉を交わし、触れ合ったことは、始めての経験であり、鮮烈な刺激になったことと思います。

この中学三年生のうち相当数は来春、白河高校を受験し、合格して白高生となることでしょう。今回の感動を生かして、文武両道の白高生として、登龍魂を發揮してくれるものと思います。

## 平成26年度同窓会総会開催

去る五月十七日(土)、ホテルサンルート白河において平成二十六年同窓会総会が開催され、五十五名の会員の参加がありました。



金沢隆夫事務局長(高23)の進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、金内貴久顧問(高13)のリードによる校歌斉唱の後、この一年間に亡くなられた同窓生の方々のご冥福を祈り、黙祷を行いました。



任された先生方のご紹介がありました。この後東京登龍会の人見信男会長(高20)から挨拶があり、また来賓を代表して白高後援会会長櫻井和朋氏(高12)と福島県議会議員満山喜一氏(高22)からご

祝辞をいただきました。次に、慣例により還暦を迎える高24回卒の須藤博之氏(白河市議会議長)が議長に選出され、議事に入りました。まず、鈴木雅文庶務(高28)から平成二十五年事業報告、石塚次男会計(高26)から平成二十五年決算報告が、加えて立花栄治監事(高18)から会計監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて鈴木庶務から二十六年事業計画案が、石塚会計から二十六年予算案が提案され承認されました。その他で、同窓会報について保護者向けと同窓会員向けに分けて発行してはどうかとの提案がありました。また女性の会員で組織する「桔梗の会」の六角富美子

氏(高6)から会の近況報告がありました。最後に佐藤幸彦副会長(高29)が開会を宣言し、無事総会が終了しました。

その後、別室において懇親会が開かれ、還暦を迎えた高24回卒の会員二十名も出席して盛大に開催されました。(文責金沢隆夫)



### 【講演会】

総会前の講演会では、金沢事務局長の進行で、有賀豊氏(高24)の講師紹介の後、(株)丸広百貨店専務取締役の中目隆夫氏(高24)が「金融業と小売業に携わって」という演題で講演されました。

中目氏は、レジユメをもとに金融業、小売業、クウエートでの体験、百貨店経営等の貴重な内容のお話をされました。参加者一同、熱心に拝聴させて頂きました。

(文責植村美洋)

### 平成25年度白河高等学校同窓会会計決算書

平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日  
 収 入 の 部 総 額 4,951,254 円  
 支 出 の 部 総 額 3,377,922 円  
 次年度への繰越 1,573,332 円

#### 収入の部

(単位 円)

項 目	当初予算額	決 算 額	増 減	備 考
繰 越 金	1,111,803	1,111,803	0	
入 会 金	1,006,800	999,600	△ 7,200	1,200円×833名
賛 助 金	2,000,000	2,818,050	818,050	個人会員
雑 収 入	1,397	21,801	20,404	預金利息、同窓会名簿販売等
合 計	4,120,000	4,951,254	831,254	

#### 支出の部

(単位 円)

項 目	当初予算額	決 算 額	残 減	備 考
総 務 費	725,000	396,458	328,542	
事務費	25,000	11,638	13,362	事務用品、卒業アルバム
通信費	40,000	66,270	△ 26,270	切手・郵便料金等
会議費	150,000	8,300	141,700	常任理事会
総会費	140,000	146,950	△ 6,950	総会諸経費
旅費	100,000	0	100,000	
慶弔費	120,000	84,000	36,000	香典・立看板代
交際費	150,000	79,300	70,700	広告掲載費
教育助成費	350,000	365,880	△ 15,880	
学校図書充実費	150,000	150,000	0	
体育文化助成費	0	0	0	
卒業記念品助成費	50,000	65,880	△ 15,880	印鑑購入補助
登龍会館運営助成費	0	0	0	
進路対策費	150,000	150,000	0	
事業活動費	2,035,000	2,115,164	△ 80,164	
支部育成費	150,000	92,000	58,000	同窓会・支部総会祝い金
会報発行費	600,000	1,100,294	△ 500,294	会報印刷代
会報送付費	1,100,000	668,520	431,480	会報送付料・諸経費
事業費	30,000	0	30,000	
研修費	5,000	0	5,000	
登龍賞基金	150,000	254,350	△ 104,350	図書カード、楯
基金	150,000	0	0	
同窓会基金	150,000	0	0	
予備費	860,000	500,420	359,580	
予備費	860,000	500,420	359,580	エアコン工事費補助
合 計	4,120,000	3,377,922	592,078	

歳入額 4,951,254 円 歳出額 3,377,922 円 差引残高 1,573,332 円は、次年度へ繰り越し

なお、同窓会基金定期預金の総額は 5,491,245 円 (常陽 121,065 円・東邦 1,250,000 円・白信 4,120,180 円)

平成 26 年 4 月 17 日監査を行い、関係書類を照合の結果、適正に執行されていることを認めたので報告します。

監査 立花 栄治  
 有賀 秀晴  
 金子 芳尚

平成 26 年 4 月 17 日

福島県立白河高等学校同窓会長 安田 好伸

### 平成26年度白河高等学校同窓会予算書

平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日  
 収 入 の 部 総 額 4,576,000 円  
 支 出 の 部 総 額 4,576,000 円

#### 収入の部

(単位 円)

項 目	26 年度 予算	25 年度 予算	対 比 増 減	備 考
繰 越 金	1,573,332	1,111,803	461,529	
入 会 金	1,002,000	1,006,800	△ 4,800	1,200 円 × 835 名
賛 助 金	2,000,000	2,000,000	0	個人会員
雑 収 入	668	1,397	△ 729	預金利息
合 計	4,576,000	4,120,000	456,000	

#### 支出の部

(単位 円)

項 目	26 年度 予算	25 年度 予算	対 比 増 減	備 考
総 務 費	765,000	725,000	40,000	
事務費	25,000	25,000	0	事務用品、卒業アルバム代
通信費	60,000	40,000	20,000	切手・郵便料金等
会議費	150,000	150,000	0	常任理事会
総会費	160,000	140,000	20,000	総会諸経費
旅費	100,000	100,000	0	諸会合出席者旅費
慶弔費	120,000	120,000	0	香典・弔電・看板代
交際費	150,000	150,000	0	広告掲載費
教育助成費	350,000	350,000	0	
学校図書充実費	150,000	150,000	0	
体育文化助成費	0	0	0	
卒業記念品助成費	50,000	50,000	0	印鑑代補助
登龍会館運営助成費	0	0	0	
進路対策費	150,000	150,000	0	
事業活動費	2,135,000	2,035,000	100,000	
支部育成費	150,000	150,000	0	同窓会・支部総会祝い金
会報発行費	1,800,000	1,700,000	100,000	会報印刷代、送料
事業費	30,000	30,000	0	
研修費	5,000	5,000	0	
登龍賞基金	150,000	150,000	0	図書カード、楯購入・文字入れ
基金	150,000	150,000	0	
同窓会基金	150,000	150,000	0	
予備費	1,176,000	860,000	316,000	
予備費	1,176,000	860,000	316,000	
合 計	4,576,000	4,120,000	456,000	

款、項目間の流用は、会長一任とする。

以上の通り提案いたします。

平成 26 年 5 月 17 日

福島県立白河高等学校同窓会長 安田 好伸

# 母校だより

## 人事異動

平成二十六年年度の人事異動は次のとおりです。

三月末には、田中誠教頭が猪苗代養護学校校長にご栄転されたのをはじめ、合わせて十八名の方々が異動となりました。また、四月一日には、福島県教育センターより吉田浩美教頭他十八名の先生方をお迎えいたしました。

このたび転出された同窓の先生方は、ご退職の鈴木敏博先生(高24・英語)と長年母校のために講師としてお勤めいただいた藤田昌美先生(高18・数学)のお二人です。  
また、着任された同窓の先生方は以下の五名です。

修明高校より吉田秀敏先生(高39・英語)、岩瀬農業高校より緑川誠先生(高45・数学)、新採用として仁井田重人先生(高53・音楽)、志賀卓也先生(高53・英語)、皆川佐保里先生(高60・保健体育)。  
二十一世紀を生き抜くためには、確かな学力、豊かな心、健康やかな身体の調和を重視する「生きる力」を育てることがますます



教頭  
吉田浩美  
(高39)

九十有余年の歴史を誇る白河高校に赴任し、充実した日々を送っています。それは、すべてにおいて高い意識を持って臨んでいる生徒たちを他の教職員の方々と指導できるところにあると思います。生徒たちの熱き思



吉田秀敏  
(高39)

今年度の人事異動により、光栄にも再び我が母校である白河高校の教壇に戻って来ることができました。同窓会の皆様方には、前回の在任期間においても大変お世話になりましたことを改めて感謝申し上げます。前回



緑川 誠  
(高45)

この四月より、二十一年ぶりに母校の地を踏みました。いつかは母校で勤務したいと考えていたので、赴任できた喜びとともに、後輩たちを指導するという責任感をもちながら勤務しております。



仁井田重人  
(高53)

この四月より、母校である白河高校の教壇にたつことになりました。卒業以来十四年ぶりに母校に戻ることができ、当時を思いだしながら勤務に励めることを大変嬉しく思い、幸せに感じています。



志賀卓也  
(高53)

4月に白河高校に参りました。生徒達は授業をしっかりと聞き、また、一生懸命ノートをとるなどとても真剣に授業に取り組んでいます。その姿勢がとてもすばらしいと感じています。私も



皆川佐保里  
(高60)

この四月より、白河高校の教壇に立つこととなりました。六年前までは生徒として、二年前は教育実習生として学んだ母校に、初めての赴任校として勤務できることを嬉しく感じています。

## 表紙の作品について

内閣総理大臣賞

受賞作「流水幻想」に寄せて



今井 珠泉 (中22)

大臣賞の受賞は、それなりに嬉しいことではあったが、これによって私の作風が今後大きく変わる訳では無く、今後の仕事を一貫してやって行くのみである。

絵画には、水彩画や油画・日本画等々絵の具の材質によって表現方法も違ってくるが、特に日本画というジャンルは、その画面から受けるものも、他と大きく異なるように思われる。丁度九月十一日(十一月九日迄受賞作品展が白河集古苑に於て開催されているので、印刷物でなく、是非作品その物を見て戴きたいと、切に願って居る。絵の見方には、こう見なさいというきまりは全く無く、先入観なし

「流水」について一言。真冬の北海道(道東)の見渡す限り海を埋めつくした流水をはじめて見た時は、その凄さに鳥肌がたつた。流水を見た事のない人に言葉で説明してみてもそのスケールは表現できない。「百聞は一見に如かず」興味のある人は厳冬の二月、紋別か網走に実際に行つて現場に立つてみることをお勧めする。

### ○略歴

東京芸術大学美術学部日本画科卒業  
現在 日本美術院同人  
広島市立大学名誉教授  
尾道大学名誉教授

## 賛助金納入のお願い

会報第一三六号を高46回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。平成

年もよろしくお願い申し上げます。  
賛助金は 一口一、〇〇〇円  
できるだけ二口以上で協力ください。  
郵便振替番号

進路報告

京都大一名、福医大医学部二名を含む

国公立大学九十二名合格

進路指導専事 中野 浩文

今春の卒業生の進路状況は下記の通りです。二七七名の卒業生のうち四年制大学進学者が二四一名、短期大学が七名、専門学校が十一名、就職が一名となっております。四年制大学合格者のうち国公立大学合格者は、京都大一名、東北大一名、福医大医学部二名、筑波大二名をはじめとし合計九十二名のほりました。私立大学も、早稲田大三名、慶應大二名、明治大六名、中央大七名、立教大二名、法政大八名、青山学院大五名など延べ四〇四名にのぼり、卒業生の八十七パーセントが四年制大学への現役進学を実現しました。また、部活動をしていた生徒の健闘も光り、京都大、福医大医学部、早稲田大等の難関大学にも合格しています。部活動加入者の四年制大学への進学率は八十六・三パーセントとなり、昨年度を〇・二ポイント上回りました。

平成25年度卒業生 大学合格状況(現役生のみ)

Table with columns for university type (National/Public/Private), school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for private university, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for private university, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for short-term university, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for vocational school, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for preparatory school, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for study abroad, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for employment (including public servants), company name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for private university, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for short-term university, school name, and counts for H25, H24, and H23.

Table with columns for university type, school name, and counts for H25, H24, and H23.

# 進学報告

## 京都大学へ進学して



星 直輝 (高6)

僕が京都大学に合格してから早くも約半年がたち、大学生活も八分の一が終わったこととなります。この半年が早く感じられるのは、大学での生活が充実しているからだと思っています。大学で生活をしていて感じる高校とのもっとも大きな違いは、自由であるということです。京都大学は自由の学風で、学生の自学自習を重んじているため、学生が自由に自分の履修する科目を選択することが出来ます。京都大学は総合大学であるため多くの教養科目が提供されており、幅広い選択肢の中から、質の高い教養を身に付けることが出来ます。自由なのは学習面だけでなく、大学での講義にサークル活動やアルバイトを組み合わせて、自分だけの生活スタイルを作ることが出来ます。しかし、自由には責任も伴います。大学には、親元を離れて一人暮らしをする人も多く、食事や睡眠時間、大学に行くかどうかも自由になります。大学には授業をさぼった時に叱つてくれる担任の先生もいませんし、一人暮らしをすれば朝起こしてくれるお母さんもいません。授業をさぼって卒業できなくても自分の責任、生活リズムが崩壊しても自分の責任です。大学生は、このような責任の中でも、自由をかみしめて楽しく充実した毎日を送っています。白河

## 福島県立医科大学に進学して



高橋 勇貴 (高6)

高校の皆さんも、自分の行きたい大学で充実した大学生活を送れるよう頑張ってくださいと思います。

無事に大学へ進学してから半年近くたちました。新しい友達や先輩からの刺激を受け、忙しくも楽しい毎日を送っています。大学に入ったとはいつても、一年次ではほとんどの授業が基礎科目であり、高校生と同じく数学や生物に苦しむ日々です。しかし、週に何度か各診療科の教授による特別講義があり、聞いたことのない病名や治療法などに触れ、これから六年かけて学ぶ医学への期待を胸を膨らませていきます。七月には病棟見学があり、実際にオペ室に入って手術見学をする機会がありました。緊張感のあるオペ室では身が引き締まり、先生方から医学生としての自覚や覚悟を学ぶことができました。県立医大では勉強だけでなく部活も盛んです。私も新しく軟式テニスを始め、下手くそながらも楽しく心地よい汗を流しています。在校生の皆さんも大学ではぜひ部活やサークルに入ってみてください。部活での友好関係はきっと将来役に立ちますし、講義だけでは得られない教訓もたくさんあります。まだまだ始まったばかりの大学生活ですが、苦しいことやつらいことも含めとても充実しています。これからのいろんなことを経験し、自分の知恵として身に付けてながら地道に自分の理想とする医師像に向かって歩み続けていきたいと思っています。

## 中央大学に入学して



藤田 哲平 (高6)

こんにちは。中央大学総合政策学部1年の藤田哲平です。今回、このような文章を書く機会をいただき、とてもうれしく思っております。さて、入学してから半年が過ぎようとしています。毎日とはとても充実している時間がいくらかあっても足りない毎日です。大学というところをひとことで説明するならば、『自由』です。講義に行かなかつたから、休日を丸一日寝て過ごしたからといって、だれにおこられるわけでもありません。友人と遊んで夜遅く帰ったからといってだれかに迷惑をかけるわけでもありません。しかし、嫌になるほど勉強し、高額な学費を払ってまで入った大学なのに、そんな自由の使い方がいいのかと疑問に感じています。私はいつか語学留学をしたいと考えております。そのために深夜のアルバイトを始め、資金を貯めています。また、高校時代から私の生きがいであった剣道の練習に、週4回参加しています。いろいろな人の話を聞くために、先輩や社会人と頻りに交流しています。いろいろなことにチャレンジして、『自由』を、自分なりに、自分のためになる『自由』にしているつもりです。だから僕は、自分が成長していることを感じる事ができるし、何より毎日が楽しいです。この『自由』を生かすも殺すも、先生や親ではなく自分次第だと思います。大学に入ること目標にせず、そこで何をしたいのか、さらにその先の人生に何を求めるのか。常に先を考えて生活すること大事だと思います。

# 夏にかける熱い思い

野球部 菊地 郁恵 (二年マネージャー)

熱気で包まれる球場全体にサイレンが鳴り響く。去年の三年生はベスト8という結果で最後の夏を終えた。それと共に一、二年生の新チームが始動した。夏の結果を背景に期待も高まる。初の公式戦。結果は地区予選敗退。チームにはたくさんの課題が与えられた。その課題を克服するべくより力の入った厳しい寒さの中の冬の練習。しかし、それでも春に結果を残すことはできなかった。夏までの時間のない三年生にとって、それがどれだけ不安で、複雑な気持ちと葛藤していたことだろうか。だが確実に力をつけていた。



迎えた夏本番。ベンチ入りを果たした三年生全員をはじめとするメンバーは、一丸となっていた。そんな白高の初戦は会津学鳳高校。

七月二十五日。去年の三年生が負け、引退した日でもあるこの日の準決勝。なんと相手も同じ日大東北高校。リベンジに燃え、決勝進出をかけたこの戦い。なんととしてでも勝ちたい一戦であったが、結果はコールド負け。三年生の夏は終わりを告げた。しかし、秋、春の苦しみが力となり、ベスト4という結果に辿りつくまでの勇姿は多くの感動をもたらしたに違いない。



球場全体に響き渡るこのサイレンは、終わりを告げると共に、新たな始まりのようにも感じた。

# 平成 26 年度 部活動前期の成績

部活動名	年月日	大会名	成績	受賞者	部活動名	年月日	大会名	成績	受賞者	
陸上競技部	26・5・11	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	優秀選手賞	設楽 遙	テニス部	26・5・7	第 60 回福島県高等学校体育大会県南地区大会	男子学校対抗 第 3 位		
			男子フィールド 第 1 位					26・6・12	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選	男子 I 部シングルス 第 1 位
			男子総合 第 3 位			男子 I 部ダブルス 第 3 位	田村 大生・ 白井 悠太郎			
			男子走高跳 第 1 位	鈴木 敦也		男子 II 部シングルス 第 1 位	森 広大			
			男子八種競技 第 1 位	和知 悟志		男子 II 部ダブルス 第 2 位	森 広大・ 佐久間 瑞貴			
			男子八種競技 第 3 位	金澤 有磨		26・5・12	第 60 回福島県高等学校体育大会県南地区大会	第 3 位		
			男子やり投 第 1 位	小林 郁哉				弓道部	26・5・11	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会
			男子 5000mW 第 1 位	藤田 剛志		男子個人 第 2 位	佐藤 大地			
			男子ハンマー投 第 1 位	鈴木 陸生		男子個人 第 3 位	中宿 晃太			
			男子 1 年 4 × 100m 第 2 位			26・6・2	第 60 回福島県高等学校体育大会		男子団体 第 1 位	
			男子砲丸投 第 3 位	深津 圭佑		26・6・15	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選		男子団体 第 2 位	白河 高校 B
			男子棒高跳 第 3 位	深谷 紘大		男子個人 第 1 位		鈴木 健也		
			女子総合 第 6 位			26・6・15	平成 26 年度東北高等学校選手権大会	男子個人 第 3 位	坂本 賢吾	
			女子七種競技 第 1 位	安部 菜緒子				男子個人 第 4 位	寺田 茂樹	
			女子 1 0 0 mH 第 2 位	宮尾 和佳奈				女子個人 第 6 位	田崎 海子	
	女子 400mH 第 2 位	宮尾 和佳奈	26・7・6	第 67 回福島県総合体育大会	少年男子団体遠的競技 第 1 位			白河 高校 A		
	女子 5000mW 第 2 位	設楽 遙			少年男子団体遠的競技 第 2 位			白河 高校 B		
	男子八種競技 第 2 位	和知 悟志	少年男子個人遠的競技 第 1 位	薄井 駿						
	男子 5000mW 第 2 位	藤田 剛志	少年男子個人遠的競技 第 2 位	関根 俊太郎						
	男子走高跳 第 3 位	鈴木 敦也	少年男子個人遠的競技 第 4 位	佐藤 鴻成						
	男子走高跳 第 5 位	鈴木 敦也	26・4・29	第 39 回牡丹杯剣道大会	高校女子の部 優勝					
	男子 5000mW 第 6 位	藤田 剛志			剣道部			26・5・11	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	女子団体 第 1 位
	男子走高跳 第 3 位	鈴木 敦也	女子個人 第 1 位	山村 彩乃						
	男子砲丸投 第 3 位	深津 圭佑	女子個人 第 2 位	横幕 はるか						
	男子棒高跳 第 3 位	深谷 紘大	女子個人 第 3 位	斎藤 美南						
	男子少年 A ハンマー投 第 1 位	鈴木 陸生	女子個人 第 3 位	佐藤 環						
	男子少年 B 砲丸投 第 3 位	深津 圭佑	男子団体 第 3 位							
男子少年 B 砲丸投 第 3 位	深津 圭佑	26・6・2	第 60 回福島県高等学校体育大会	女子団体 第 1 位						
女子 5000mW 第 1 位	設楽 遙	女子個人 第 1 位	山村 彩乃							
女子 400mH 第 2 位	宮尾 和佳奈	26・6・15	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選	男子団体 第 3 位						
女子 200m 第 2 位	池田 有里			女子個人 優勝		横幕 はるか				
女子 100m 第 2 位	池田 有里			女子個人 準優勝		斎藤 美南				
男子走高跳 第 2 位	鈴木 敦也			女子個人 第 3 位		佐藤 環				
男子少年共通 5000mW 第 2 位	藤田 剛志			女子個人 第 3 位		小坂 沙貴				
卓球部	26・5・3	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	女子学校対抗 第 2 位			バドミントン部	26・5・9	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子学校対抗 第 3 位	
卓球部	26・5・6	第 59 回牡丹杯卓球大会	男子ダブルス 第 2 位	齋藤 宙斗 吉成 尚人					男子ダブルス 第 2 位	丸山 健一郎・ 斎須 俊希
			女子シングルス 第 2 位	直井 葉月	男子シングルス 第 3 位		橋本 賢也・ 金子 智哉			
			女子ダブルス 第 2 位	大平 京香 有坂	男子個人 第 3 位		斎須 俊希			
女子ダブルス 第 3 位	斎藤 優貴 小野 智保	26・6・14	平成 26 年度東北高等学校選手権大会	ケイリン 第 4 位	小磯 太一					
一般女子団体 第 3 位				26・7・10	第 67 回福島県総合体育大会		少年の部 4km 速度競走 第 1 位	小磯 太一		
卓球部	26・6・14	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選	少年男子団体 第 3 位		自転車同好会		26・6・14	平成 26 年度東北高等学校選手権大会	少年の部ケイリン 第 2 位	小磯 太一
卓球部	26・6・14	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選	少年女子団体 第 2 位						美術部	26・6・29
卓球部	26・6・14	第 67 回福島県総合体育大会 県南地区予選	少年女子シングルス 第 3 位	直井 葉月	青少年奨励賞		佐藤 亘			
バレーボール部	26・5・12	第 60 回福島県高等学校体育大会県南地区大会	男子第 3 位		青少年奨励賞		小室 恵			
バレーボール部	26・6・16	夏季県南バレーボール選手権大会 (第 67 回福島県総合体育大会県南地区予選)	男子第 1 位		青少年奨励賞		金内 美空			
			女子第 1 位		写真同好会		26・6・22	第 3 回『民家の甲子園』福島大会 町並みフォトコンテスト	優秀賞 (福島県教育長賞)	佐藤 史織・内田 亜梨沙 ・佐藤 真愛
ソフトテニス部	26・5・11	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子団体の部 第 2 位						準優秀賞 (郡山市教育委員会教育長賞)	佐藤 夏紀・堀田 美涼・ 尾崎 美里
ソフトテニス部	26・5・11	第 60 回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	女子団体の部 第 3 位							
			女子個人の部 第 3 位	神 もも香 金澤 愛莉						
			女子個人の部 第 3 位	角田 梨子 小松 茜音						

# 部活動報告

## 南関東インターハイ

### を終えて

剣道部主将 石川 瞳子

私たち剣道部はインターハイ福島県予選の女子団体において2年ぶり4度目の優勝、個人戦では山村彩乃が優勝し、8月1日から神奈川県小田原アリーナを会場に開催された南関東インターハイに参加してきました。私たちは「インターハイ出場」を目標に掲げ、練習に励んできました。そして新チームでの初めての全国選抜大会の県予選、決勝戦で磐城高校に敗れてしまいました。でも、その全国選抜大会の予選で負けたことで、やっとチームにスイッチが入りました。それからの練習は必死に取り組み、昨年逃してしまったインターハイへの切符を絶対に掴み取ってやる！という気持ちで、インターハイ福島県予選に臨みました。県予選では相手校の研究や対策を十分に行ってきたので、順調に勝ち上がることができました。



勝てた磐城高校。磐城高校はどの学校よりも時間をかけて対策した学校だったので、自信を持って戦うことができました。副将でエースの山村が小手を決め、悲願の優勝を果たしました。インターハイでは、福島県代表として堂々と戦ってこようと、全力を出してきました。女子団体は2日に予選が行われました。神奈川県桐蔭学園高校と富山県富山北部高校として白河高校の3校による予選リーグでは、1試合目に桐蔭学園が富山北部に勝ち、2試合目に白河と富山北部の試合でした。桐蔭学園に敗れた富山北部は白河戦で絶対に勝たなくてはならないと勢いづいていましたが、自分たちの剣道を貫き、3対0で勝つことができました。3試合目は地元神奈川県神奈川県の強豪、桐蔭学園と試合でした。攻めが強く、積極的な剣道に先鋒戦は二本負けしてしまいました。中堅戦で巻き返し、副将戦は惜しい場面はあるものの、有効打にしきれず、勝負は大将に委ねられました。大将横幕は果敢に攻め続け、惜しい場面は何度もありましたが、有効打を取りきることができず、最後取りに行つたところを打たれて負けてしまいました。自分が、自分の精一杯を發揮し、福島県代表として堂々と戦うことができたと思います。個人戦は3日に行われ、惜しくも3回戦で敗退してしまいました。

最後は涙を流してしまいました。がそれ以上に大きな達成感がありました。ここまでご指導してくださった裕展先生、吉田先生、応援してくださった方々に感謝いたします。この剣道部での経験や学んだことをそれぞれの人生に生かしていきたいです。

## インターハイに

### 参加して

弓道部 顧問 根本文彦

男子団体は7年ぶり11回目のインターハイ出場であり、女子団体が4回、全国選抜弓道大会にも4回出場しているの、合計19回目の全国大会でした。

県大会優勝後不調が続き、東北大会では予選落ちし、夏休みが始まった。課外や団体の合宿などで5人がそろって練習することが出来ず不安な出発だった。しかし、東京の暑いグラウンドに設けられた仮設の練習場で、汗だくになりながらチームで練習することで、チームらしくなってきた。公式練習は、前年度優勝校で今年も優勝した倉吉西高校と競うことになったが、聴することなく引き分けることが出来た。

予選は14中することができ、全体の7位同中で決勝トーナメントにすすんだ。

決勝トーナメントはこれまでの疲れが見え、11-15で長野日大高校(予選2位、決勝も準優勝)に敗退したが、その後も決勝戦まで応援を続け意義のある大会となった。先輩たちは、インターハイでは3位、選抜大会では2位になっているため、今後も全国制覇を目標に練習を続けたいと思う。



今回の全国大会出場も、大会の度に駆けつけてくれた卒業生や保護者の皆様の応援のおかげでした。ありがとうございました。

## インターハイ出場に

### 挑戦した東北大会

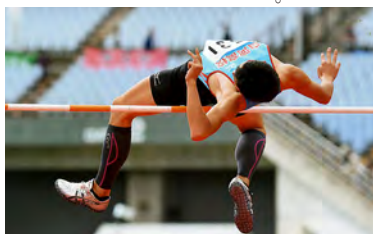
陸上競技部 顧問 西牧 学

今年度は、2年生の鈴木敦也が走高跳でインターハイに出場したが、全国の予選通過ラインが高く予選を通過することができませんでした。ここでは東北大会でインターハイ出場に挑戦した5選手の活躍を紹介しよう。

大会初日、2年生の和知悟志が八種競技に出場。県南地区は446点で優勝、県大会では4501点で第2位と得点をのばして臨んだが、6種目終了時点で17位。しかしここから驚異的な力を發揮、走高跳と1500mでトップの記録を出し一気に順位を上げ、4583点の8位と健闘した。

2日目、3年生の藤田剛志が5000m競歩に出場した。県南地区で優勝、県大会2位。最後の大会という思いで臨んだ初めての東北大会で、残り1000mから持ち前の根性を見せ、ベストタイムを2分も縮め、堂々の6位入賞を果たした。

3日目、やり投に3年生の小林郁哉、走高跳に鈴木敦也が出場。やり投は一投で5位に入賞するという逆転の小林。ベスト57m33を持ち、60m超えを目指して臨んだが、54m81の14位。走高跳は県南地区1m95で優勝、県大会1m92の2位。安定したジャンプで2mを目標として臨んだ東北大会。3回目となる功するといふ苦しい展開の中、自己ベストとなる1m97で5位に入賞、インターハイ出場を果たした。



最終日、昨年団体選手として出場した経験をもつ2年生の宮尾和佳奈が1000mハードルに出場。予選を2位で通過して、準決勝で14秒台を狙ったが、15秒49で決勝進出を果たせなかった。

5人の挑戦を糧にして白河高校の陸上競技が一步前進することを期待したい。

## インターハイ全国大会出場

「悔しさをバネに勝ち取った 全国大会出場」

自転車同好会 小磯太一

白河高校の自転車同好会には3年生の自分しかいません。従って休日に白河実業高校の練習に参加する以外は、練習には一人で黙々と取り組まなければいけません。そんな中、昨年のインターハイ東北大会では、あと一步のところまで全国大会出場を逃しました。十分悔しい思いをしていただけに、大変悔しい思いをしました。その悔しさを糧に一年間苦しい練習に耐えてきましたが、今回晴れて全国大会出場を決めることができました。大会では強い思いでレースに臨みましたが、全国の壁は厚く入賞は果たせませんでした。ただし、全国のレベルを肌で感じる事ができました。今回のこの貴重な経験を生かし、大学進学後も自転車を続け、インターカレで優勝することを目標に、さらに練習に取り組みしていきたいと思っております。





# 文化部のインターハイ

## いばらき総文作品について

書道部顧問 菊地良尚

今年度福島県代表として参加した書道部三年・川野まきの作品は「臨自叙帖」。草書体による多字数作品です。90cm×240cmの大きさがあり、七段構成です。文字の流れをよく捉え、文字の大小・潤渾の変化に細心の注意を払いつつ仕上げた意欲作です。

書道部 三年 川野まき

わくわくどきどきしながら参加した、いばらき総文。全国レベルの作品を目の前にして、とても感動したのを今でも覚えて



臨書から創作まで、様々な種類の作品が展示してあり、作品それぞれにその人の個性が表現されていて面白かったし、勉強にもなりました。自分と同じ古典を臨書しているものもあり、同じ物なのにこんなにも雰囲気が変わるのだと驚きました。  
交流会では、印籠と和綴じ本を作りました。グループ活動ではあったけれど、たくさん友達ができ、書道の話もたくさんしました。  
時間的にも体力的にも、一日に一枚仕上げるのがやっとで、出品する作品を完成させるのは本当に大変でしたが、

### 写真同好会

## 「いばらき総文」に参加して

写真同好会顧問 藤井克憲

文化部のインターハイと呼ばれる全国高等学校総合文化祭・写真部門に参加してきました。福島県代表8枠中の4枠に、本校生の近内恵莉・芳賀可奈子・添田美祈(3年)・吉田頌子(2年)の4名が推薦されました。昨年の「ながさき総文」に続き、2年連続出場となる快挙です。

熱心な部員。協力的な保護者の方々。応援してくださる先生方。撮影に協力してくれる数多くの白高生。こんな恵まれた環境で活動ができて幸せです。心より感謝申し上げます。



## 将棋で全国大会出場

有賀才貴

私は8月24日(日)・25日(月)に福岡県博多市にある電気ビル共創館で、第27回全国高等学校将棋竜王戦に福島県代表として出場しました。結果は予選を1勝2敗で敗退しましたが、翌日の予選敗退者26名によるトーナメント(竜王杯争奪戦)で全勝し努力賞を得ることができました。しかし、負けた局では、局面を良くする手順があったり、自分の方が有利な局面もあったので、今後の課題も多く残りました。私はまだ一年生なので残りの二年間でしっかりと地



# 支部だより

## 埼 支 部

事務局長 早田研司(高21)

七月五日、平成二十六年年度の埼支部総会が開催されました。本会から安田会長さんをはじめ、高橋校長先生、中村副会長の出席を、また棚倉支部から宗田支部長、鈴木事務局長の出席をいただきました。

埼支部には他に無い組織「青年部」があります。今年目標は、ゴルフ大会・埼支部の埼在住の卒業生の名簿の拡充です。

白高の野球部も活躍もめざましく甲子園の尻尾がみえています。埼支部の名簿の拡充が先か、はたま甲子園が先か：

## 西郷支部

### 総会・交流会開催

支部長 相馬 博(高17)

支部総会を八月二十二日午後七時より、村内「中華飯店太幸苑」で開きました。会員二十一名の出席をいただきました。

ご来賓の西郷村長佐藤正博様(高18)、同窓会長安田好伸様(高18) 教頭伊東光司様からご祝辞をいただき、事務局長金沢隆夫様(高23・西郷支部会員)にもご臨席を賜りました。

役員改選では、次の方々が選出されました。

支部長 相馬 博 副支部長 真船正晃、真船秀典、添田 浩 会計 飯村義和 監事 伊藤 正美、和知七郎 以上(任期二年) 西郷村に在住の同窓の皆さん、毎年八月第三金曜日に総会を開催する予定です。一度総会に出席され交流を深めてはいかがでしょうか？一人でも多くの出席を待っています。

# 同窓生 近況だより

## 桔梗の会に参加して

浅田京子(高6)

昭和の共学生をつどい桔梗の会を、平成25年10月9日那須湯本の自在荘で、15名の出席者が揃い開催しました。昭和25年から昭和29年までの入学生です。

全員が75才以上となり、学年の垣根もすっかり無くなって語り合いい、希望に溢れて入学した元気なお仲間が半世紀を越えた人生経験の深み加わって、いい出会いになりました。

昭和の共学生は戦後のまだ大変な時代の高校生でした。それでも平和に過ごせることにホッと、前途に向かって一生懸命でした。

お互いに尊敬し合える桔梗の会のメンバーは、これからの未知なる人生の心の支えになっていくと思えました。



## とっくり会締め総会

小島 昭(中19)

平成の共学生の皆様のおしあわせを心から祈念、一晩では語りつくせない、名残り惜しい桔梗の会の皆様の健康を祈って、再開を楽しみに帰途につきました。

とっくり会は、毎年開催してきました。今年の第三十二回総会は、米寿の祝いかねて五月二十五日に、新白河駅前ホテルサンルート白河で昼食会でした。出席者は七名でした。大川淳一郎君は出席の予定でしたが、当日、都合が出



来て欠席しました。写真はホテル前の広場です。右から松井幸三郎、片岡英信、小島昭、渡辺薫、円谷昭雄、藤田文彦、鈴木昭松の各君です。総会は松井君の司会で開会し、まず、物故者追悼の黙禱、片岡代表の挨拶、小島の庶務報告と

会計報告の代読の後、円谷君の乾杯で、懇親会になりました。同級生各位が高齢者になりました。総会の出席者が少数になりましたので、今回で、とっくり会総会を締めます。長い間、とっくり会を継続し、各地の観光地で総会を開催し、懇親会をして、楽しむことができたことは、会員皆様のご協力に感謝します。片岡代表、大川会計、幹事、カメラの山口哲夫君にお世話になりお礼申し上げます。平成二十三年に死去した前事務局の故川瀬正三郎君には、とっくり会創立から二十八年間、企画、運営を勤め、会員を楽しませてくれた君にとっくり会を締める事を報告しますとともに、君に感謝し申し上げます。ご冥福をお祈りします。

白高同窓会の役員の皆様にはお世話様になりました。

## 劣るとも優らない

有賀 豊(高24)

五月の同窓会の担当を無事終えることができ、ありがとうございます。

さて、かつて恩師の櫻井先生は前回の記念誌の中で白高の教師をするとき、目標が二つあったと書いています。

- 一、東大合格五名以上
- 二、野球部の甲子園出場

その一は私たちの学年が「東大合格六名」ということで達成されました。(ちなみに私のことではありません。)

先日行われました総会においてもこれを言いましたら、「お」という声が上がりました。

一は達成されたのですが、もしかしたら二も私たちの学年が？ というのも磐城高校が甲子園で準優勝したのは、私たちが三年生の時でした。

それをさかのぼること三年前の中体連の県大会野球で優勝したのは、なんと白河中央中学校だったのです。

もしかして、そのままのメンバーが白高野球部に入っていたら、櫻井先生の二つの目標がいっぺんに叶えられるどころか、甲子園で白河高校が優勝し、優勝旗が「白河の関」をはじめ越えたかも？



特別企画展

再興第98回院展 内閣総理大臣賞受賞記念

今井珠泉展

期間 平成26年9月11日(木)～11月9日(日)
会場 白河集古苑

一只今開期中一

俳句

鈴木憲子(高8)



いつしかに金婚の年迎へたり
我が足跡のおぼつかなくて

春四月登龍健児となりし孫

幸多かれと祈りてやまぞ

原発より五キロにありし教会の
牧師静かに神の愛説く

ゆつたりとあふれる程に湯を満たし
未だ来ぬ春を思ひてぬたり

野鳥には野鳥の縄張りあるらしく
雪の上の餌に争ひたえず

川柳

小山 孝(高14)



吹けば飛ぶ風船だから離さない
頭微鏡コロコロ変わる舌覗く
ここからは酒に主役の座を譲る
飾らねば飾らぬままの返事来る
終章で待つ人生の通信簿

漢詩

観桜南湖

湖上紅雲映日妍
湖山積翠漾微連
四民共樂勝遊地
葩泛觴中醉酒筵

松岡 隆(高1)



南湖に観桜す(白河市)
湖上の紅雲 日に映じて妍なり
鏡山の積翠 微連に漾う
四民共樂 勝遊の地
葩を觴中に泛べ 酒筵に酔う

疏遠過母校

須岳秀峰雲淡流
母學佇堵感懷稠
登龍健士今何在
物換星移幾度秋

疏遠の母校を過る

須岳の秀峰に 雲淡く流れ
母學の堵に佇めば 感懷稠し
登龍健士 今何くにか在る
物換り星移り 幾度の秋ぞ

後援会入会のおすすめ



後援会会長 櫻井和朋 (高12)

今年、四月二十六日、第十回の後援会総会が学校で行なわれました。昨年度に引き続き、PTAの皆様にも役員として参加していただき、生徒に対して、より現実的な支援を続けることを確認いたしました。

エアコンにつきましては、今年残り数教室を設置すれば、終了ですので、今年度で仕上げることにいたしました。

さて、この原稿は、夏の甲子園大会の地方予選が、全国的に終了した時点で書いておりますが、本校野球部も、ノーシードながら、シード校を破り、ベスト4に進出してくれました。生徒の健闘を讃え、関係の皆様感謝したいと思います。

ところで、全国の地方予選の結果をみますと、今年はいわゆる進学校の快進撃が目につきました。青森高校、松山東高校が決勝に進出、静岡高校は23回目の甲子園出

東京登龍会総会開催予告

期日 平成27年5月30日(土) 11時

場所 上野精養軒 講演会 双石芳則氏(高20)

場を果たしました。本校も、近年は、私立に負けない選手が、入学しておりますので、文武両道の実践を応援したいと存じます。

叙勲等

- 平成二十五年春 瑞宝単光章 添田 泰 弘(高9)
平成二十五年秋 瑞宝双光章 岡部 光 男(高19)
瑞宝単光章 斎藤 博(高5)
平成二十六年春 瑞宝双光章 縄田 喜 則(高20)
瑞宝双光章 川崎 輝 美(高13)
瑞宝単光章 斎藤 正 之(高23)
藍綬褒章 中村 周 常(高15)

訃報

鈴木 公一(高14) 平成24・11・28
松岡 隆(高1) 26・7・28
(今号掲載の漢詩のご寄稿頂いた先輩です。東京登龍会の松岡事務局長は故人の甥になります)

叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。

編集後記

今回の会報の表紙には、再興第98回院展で内閣総理大臣賞を受賞されました今井珠泉氏(中22)の作品を掲載させていただくにあたり、心よくご快諾頂き大変感謝しております。又地元白河集古苑にて、作品展を開催中ですので、同窓生の皆さんも是非ご鑑賞下さい。

今回の特別寄稿は、東日本大震災で甚大な被害を受けた小峰城の災害復旧の状況を掲載しました。白河から離れた地で、ご活躍している、先輩、後輩の皆さんには、小峰城はじめ南湖公園、白河の関など、なつかしい故郷や母校を思い、尚一層のご活躍をして頂きたいと思っております。

同窓会報について、皆様からのご意見、また近況報告や、身近かな体験談や、めずらしい資料などは是非ご寄稿をお待ちしております。尚、今回から学校側の会報担当の先生が、植村美洋先生と蓬田絵理先生、仁井田重人先生に変わりました。よろしくお願ひします。(文責 堀川哲雄)

会報編集委員会

- 会報担当 中村 彰(高20)
同窓会副会長 堀川 哲雄(高15)
編集委員長 瀬戸 安夫(高22)
編集委員 横村 勝己(高37)
事務担当(学校) 植村 美洋(高27)
( ) 蓬田 絵理(高52)
( ) 仁井田重人(高53)

# 「史跡小峰城跡の災害復旧」

白河市文化財課 鈴木 功

## 一・小峰城の歴史

小峰城跡は、東西に延びる標高三七〇メートルほどの独立丘陵と、阿武隈川や谷津田川により形成された標高三五七メートルほどの河岸段丘上に立地し、本丸が丘陵上、二之丸・三之丸は河岸段丘上に位置している。

外堀より内側の範囲は五四ヘクタールほどで、そのうち本丸・二之丸・東側丘陵を含めた約一六・三ヘクタールが国史跡として指定されている。

## 二・東日本大震災による被害状況

小峰城跡の石垣は、現在地上において総延長約二キロメートル残されている。東日本大震災では、三月十一日の本震（震度六強）で九箇所、四月十一日の余震（震度五強）で一箇所の合計十箇所において石垣が崩落した。崩落範囲は、総延長で、約一六〇メートルを測る。

小峰城跡は、震災前の平成二二年八月に国史跡に指定されたことから、崩落した石垣の修復は、文化財の災害復旧事業として、国の補助を得ながら実施することとなった。

## 小峰城跡全景



崩落した石垣については、まず崩落状況の記録（ラジコンヘリコプターでの撮影、地上レーザー測量）を行った後、石材一点ずつにナンバールを付し、崩落位置の測量を行った。測量後は、一石ずつ撤去を行ない、仮置き場へと石材を移動した。

石材の仮置き場では、石材カルテ作成のため、石材の大きさや破損状況の確認、写真撮影などを行った。

その他、崩落箇所の周辺の地質調査や崩落箇所の考古学的調査も



崩落直後の本丸南面

## 三・本丸南面の修復工事

十箇所の石材撤去作業は、平成二五年九月まで行ったが、崩落した石材は約七千個に及ぶことが明らかとなった。

修復に向けては、まず優先箇所を選定し、本丸南面から着手することとした。



崩落石材撤去後の本丸南面

修復工事に先立ち、崩落した石垣背面にあたる丘陵斜面部の発掘調査を行った。調査の結果、本丸一帯は大きな谷地形で、ある時期に埋め戻されて本丸の平坦面が造られたことが明らかとなった。

また、崩落石材を撤去した結果、昭和五十年代の修復の際に石垣背面を固めたコンクリートが、今回の石垣崩落の大きな要因の一つであることが確認された。

こうした調査を経て、本丸南面をはじめとして、小峰城跡の石垣



石垣積み替え中の本丸南面

修復は、文化財石垣として江戸時代以来の伝統工法により行うことを基本方針とした。

石垣の積替え工事は、平成二六年一月より開始した。

積替えにあたっては、これまで使用されてきた石材を元の位置に戻していくことを原則としているが、崩落時に折れてしまった石材や経年劣化により再利用が不可能と判断された石材は、新たなものに置き換えている。

現在までに、全体の約九割の積み替えが終了している。

## 四・今後に向けて

石垣崩落箇所十箇所すべての修復工事が終了するのには、まだ時間を要することから、本丸南面石垣、前御門、三重櫓の修復を優先し、本丸・三重櫓までの開放を平成二七年度の早い段階で実現することを目標に、現在修復工事を進めている。